

フランス国立図書館の歴史 (1)

—目録史を中心に—

松本 慎二
木村 素子

目次

はじめに

1 国王文庫 Bibliothèque du roi 成立の背景

はじめに

1897年、フランス国立図書館所蔵印刷本総目録 Catalogue général des livres imprimés de la Bibliothèque Nationale の第1巻が刊行されてから、80年近くの歳月がたつ。しかも同目録はいまだ完結しておらず、わが国立国会図書館にも第186巻「THEURIET-THIRY」までしか所蔵されていない。周知のように、当時の国立図書館長レオポール・ドリルの執筆に成る同目録第1巻の序文は、フランスの目録を語る上で、また世界の図書館の歴史を学ぶ上でも必読の文献であるが、叙述が目録技術的な専門性が高いものであるためか、まだ邦訳されずに現在に至っている。本稿はこの序文を翻訳しようという企図の中から生まれたものである。従って構成はほぼ同序文に従っており、内容も同序文の抄訳紹介といった色あいがなくもない。私達が参照し得た文献も、和洋の別を問わずきわめて限られていたので、特に必要な場合以外は、出典を示すことはしなかった。これ

2 フランス最初の印刷本目録

3 デュピュイ兄弟の目録

4 ニコラ・クレマンの目録

(以下後号)

を機に先学の御教示を戴ければ幸いである。

1. 国王文庫 Bibliothèque du roi 成立の背景

フランス国立図書館の母胎となったのは、代々の国王の蔵書であった。古くはルイ9世(在位1226—1270)がサラセン王にならって自分の書物を並べた図書室をつくり、自らそこで勉強するほか、学者にも利用させたといわれている。またシャルル5世(在位1360—1380)はいたく書物を愛し、蔵書に番号を記入したり、注をつけたりしたと伝えられている。しかし15世紀の末に至るまでは、国王個人個人の私的蔵書は代がかわるごとに散逸し、国王文庫 Bibliothèque du roi というはっきりとした形をとるには至らなかったのがあった。国王文庫が確立されたのは15世紀末から16世紀初頭にかけてであり、この時代は歴史的にも大きな変動期にあたっている。この時代は王権の伸長による近代的な中央集権的統一がほぼ達成された時代であり、イタリアからの

影響によってフランス・ルネッサンスが現出し、さらには宗教改革によって各地の修道院が衰微し、従ってまた修道院付属の図書室が衰退した時代であった。このような事情は、国王文庫の成立と発展の歴史を語る上で無視し得ぬことであろう。

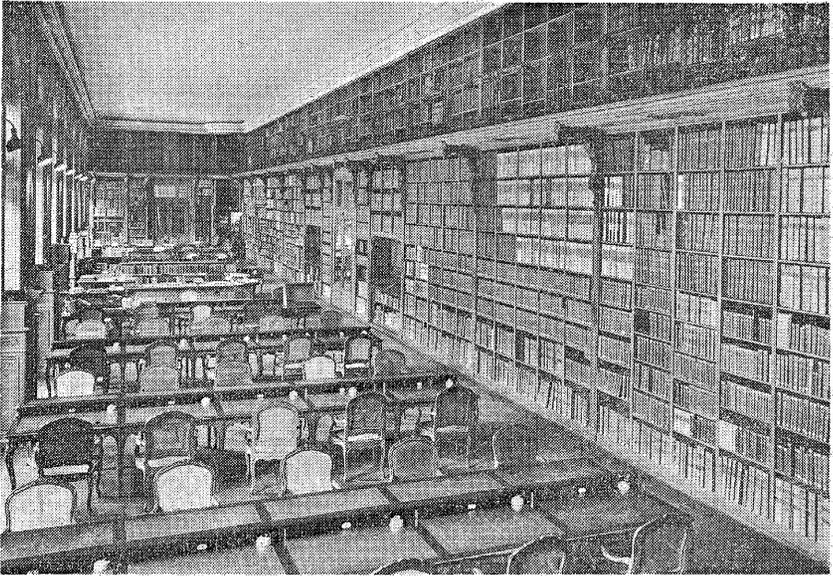
世界の大図書館、美術館などにおいて往々にしてみられるように、フランス国立図書館もその初期のコレクションの一部を略奪に負っていると言ってもよいであろう。1494年、国王シャルル8世（在位1483—1498）はナポリ王国の王位を要求してアルプスを越え、イタリアに兵を進めた。これが1559年まで続くイタリア戦争の発端である。当時イタリア半島では多くの小国が分立し、小国同士が互いに抗争しあって外国の干渉を招いていたのであるが、当時のイタリアの文化水準の高さも外国の関心を惹きつける要因となっていた。実際、シャルル8世にとっても、またその後継者達にとっても、イタリア干渉は必ずしも急務ではなかった。彼らはオーストリアとの国境問題をかかえており、政治的にはむしろこの方がはるかに重要だったのである。しかし彼らはイタリアに固執した。そしてイタリアで彼らを迎えたのは、ダヴィンチ、ミケランジェロ等のイタリア・ルネッサンスの巨匠達の数々の壮麗な作品であった。シャルル8世も、ルイ12世（在位1498—1515）も、フランソワ1世（在位1515—1547）も、いかにも田舎者らしくこれら全てに感動し、賛嘆するあまりに自分の城をもイタリア風に装飾しようとして、

多くの芸術品や書籍、また芸術家達を戦利品として持ち帰ったのである（当時のイタリア人に言わせればフランス人は力ばかり強い陽気な「野蛮人」であった）。

このイタリア戦争は、はじめこそフランス側に有利に展開したとはいえ、最終的にはフランスはみじめな撤退を余儀なくされ、政治的には一文の得にもならなかった。しかしこの戦争がイタリア・ルネッサンスに約1世紀遅れて開花したフランス・ルネッサンスに大きな影響を与えたことは見逃すことができないであろう。

このイタリア戦争中、シャルル8世はナポリのアラゴン家の蔵書を手に入れ、ルイ12世はミラノ公の文庫をフランスに持ち帰っている。ここに国王文庫の基礎が確立されたとも言えるのであり、フランソワ1世時代に最盛期を迎えるフランス・ルネッサンスの人文主義の流れと共に、この文庫は発展してゆくのである。

フランスに勃興しかけていた人文主義の動きは、イタリアからの書籍の流入によって大きく発展することになった。国王達もまた人文主義者を積極的に保護した。フランソワ1世は1530年頃、人文主義者ギョーム・ビュデ（1467—1540）の進言を採用してそれまでにある大学とは別の教育機関コレージュ・ド・フランスを創立して文芸を奨励するとともに、国王文庫を充実させることにも努め、ビュデを図書部主任に任命し、またフランスで刊行される全ての本を1部ずつ蔵書に加えるために納本制度を創始したともいわれている。



〔写真〕 手写本閲覧室

一方、フランスにおける人文主義の発展は、印刷術の進歩と切り離しては考えられない。グーテンベルグがドイツで活版印刷を発明したとされるのは15世紀前半のことであるが、フランスでも、早くも1470年頃には、ギョーム・フィシェ(1433?—1480)によって最初の印刷工場がソルボンヌに設立された。それまで長い間、悠々と手写本を作成することによって生計を立てていた写字業者や書記達にとっては、これは大変な打撃であり、彼らは自らの生活と権利を守るためにさまざまな手段に訴えたいが、所詮時代の流れにさからうことはできなかった。人文主義の風潮につれて印刷業は隆盛の一途をたどり、1500年頃にはパリには約90人の印刷業者がおり、約800種類の出版物が刊行されていたといわれる。

ではどんなジャンルのものが主に印刷、出版されていたか?—まず第一に聖書である。人文主義者で福音主義宗教改革者ルフェーブル・デターブル(1450?—1537)のフランス語訳聖書、同じく人文主義者で出版業者でもあったロベール・エチエンヌ(1503—1559)のヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語による多くの聖書などがその代表例である。その他に初期キリスト教会の教父達の数々の著作、神学の教科書などが印刷・出版されたが、これら神学関係書籍の印刷刊行、特に聖書のフランス語訳は以後の宗教改革運動の先駆となった。

さらに人文主義者達が情熱を傾けたものにギリシア・ローマの古典の印刷刊行がある。ギョーム・ビュデはトゥキデイデスを、エチエンヌ・ドレ(1509—1546)

はキケロを、ロベール・エチエンヌはプラトンをそれぞれ自らの手で出版し、フランス人の前に次々とギリシア・ローマの古典が明らかにされていった。またアミヨ(1513—1593)によるプリュタルコスのみごとな全訳は、非常に好評を博したのであった。この当時の一回の出版部数は非常に少なかった(せいぜい1000部~2000部といわれる)ので、これらの作品は概して数多くの版を重ねた。さらに、印刷・出版という行為がいかに人文主義と深く関わっているかは、当時の著名な人文主義者達がほとんど皆出版業者をも兼ねていたという事実によって明らかであろう。彼らは、主にイタリアから流入してきた古典古代の作品の何種類もの手写本を比較対照して研究し、適切な解釈を見出して原典を正確に把握し、さらにこれをフランス語訳したうえで注釈をつけ出版するという困難な仕事を根気よく行なったわけである。

出版されたのは古典古代の作品だけではない。ラプレー(1494—1553)の代表作『ガルガンチュア』が出版されたのは1534年のことである。——以上のように印刷・出版ということが一種の熱狂的流行となっていたこの雰囲気の中で、知的生活は中世におけるような、単に僧院や限られた大学だけの独占物ではなくなり、美しく装訂された二折本や四折本、八折本の書籍を蒐集することが大都市のブルジョアの趣味として一般化したのである。といっても農民や下層市民にまでこうした風習が波及したわけではもちろんない。仔牛皮で製本され、背に金文字

を入れられた見事な本のコレクションは、彼らブルジョア階級の財産の一つであった。美麗な装訂の特製版書籍を作成することで有名であった出版業者、アントワヌ・ヴェラルは、多くの富豪をパトロンに持ち、その中には国王シャルル8世やルイ12世も含まれていた。

このような時代にあつてフランス国立図書館の前身、国王文庫はその内容を充実させていったのである。印刷本がふえてゆくことは従つて当然であろう。

フランスにおける人文主義の運動は、フランソワ1世の末期になつて後退した。その理由を一言に要約すれば、人文主義の発展が必然的に宗教改革への傾斜をとめない、教会、ソルボンヌ大学などによつて代表される、ローマ教会の長女フランスのカトリック界から弾圧を受けたからである。ルフェーブル・デタープルは処罰され、エチエンヌ・ドレに至つては無神論のかどで火刑に処せられた。そしてカルヴァンが登場し、16世紀後半のフランスは宗教戦争の混乱を体験し、かつての人文主義者達はすっかり影をひそめてしまうことになる。これらから、フランス・ルネサンスの人文主義運動を単に線香花火のような一時的なものに過ぎぬとする評価もないわけではない。しかし、少なくとも印刷技術の進歩と相俟つて知的なものへの関心を一般の人々(といつてもこの時代においてはなお限られた人々であつたが)に普及させたという点では看過し得ぬ運動であつた。国立図書館の基礎がこの時代に確立したということは、この意味で誠に象徴的なこ

とがらであったというべきであろう。

2 フランス最初の印刷本目録

先述のようにシャルル8世はナポリから書物を略奪してきたのであるが、その際持ち帰られた書物の中にはかなり多くの印刷本が含まれていた。その後フランスでの印刷の流行により次々と印刷本が国王文庫にいられるのであるが、国王文庫全体の蔵書構成では16世紀中は依然として手写本の方が主流を占めており、印刷本はその中にまばらに混在する程度であった。印刷本の増大にともない印刷本だけを集めて、一つのまとまった蔵書群を設置しようとする試みは17世紀初頭、ルイ13世時代まで待たねばならなかったのである。すなわち1622年頃、国王文庫管理の任にあったニコラ・リゴー(1577—1654)が文献学者ソメーズ(1588—1653)等の協力を得てこの事業に取り組んだのである。このリゴーの試みは、フランスの目録史を語る上でまさに出発点と考えられている。

当時の国王文庫の蔵書の状態は、王家アンヴァンチール
の財産目録(王家の全ての財産を列挙し番号を付した台帳)によれば大略次の二つの蔵書群から成っていた。すなわち、

- (1) 2,069冊前後の手写本のみから成る、古い本ばかりの蔵書群。
- (2) 2,643冊の比較的新しく蔵書に加えられた本から成る蔵書群。この中には印刷本・手写本が混在している。

リゴー等は、この二つの蔵書群の区分を基礎に、新しい蔵書群の中を手写本と印刷本に分け、それぞれまとめて整理す

ることに力をそそぎ目録を作成した。この目録は次の五部に分かれている。

- (1) 2,069冊の手写本から成る古い蔵書群。
- (2) 新しい蔵書群の中のラテン語写本。
- (3) 新しい蔵書群の中のフランス語、イタリア語、スペイン語写本。
- (4)と(5) 新しい蔵書群の中の印刷本。従ってこのリゴーの目録の第4番目と第5番目のものが、国王文庫の印刷本目録としては最古のものである。これはわずかに20ページほどのきわめて簡略なものであって、印刷年月も、本の体裁も、分類番号も示されておらず、書誌的記入としてはきわめて不十分なものである。その基礎となった財産目録の記載の方が書誌的にもはるかに豊富であり、前者は後者の要約にすぎないといえよう。

リゴーの印刷本目録と、原本である財産目録の記述を次に比較してみよう。リゴーの印刷本目録第5部、「フランス語、イタリア語の古活字印刷本」中の最初の部分は次のようなものである。

イタリア語聖人列伝。ニコラ・マネルビ著。
Vie des saintes en italien, par Nicolas Manerbi.

イタリア語聖書。Bible en italien.
湖のランスロット第三部、聖盃探索および円卓騎士物語の最終部共。La tierce partie de Lancelot du Lac, avec la Queste du saint Graial et la dernière partie de la Table Ronde.

アーサー王物語。Roman du roi Artus.
フランス年代記3巻、シャルル7世まで。
Chroniques de France, 3 volumes, jusqu'à

Charles VII.

歴史の海。La Mer des histoires.

リゴアの目録にはこのように簡単な記述しかない。しかも聖人伝やアーサー王物語、年代記等々が混在していることから考えて、分類上の原則すら確立していなかったといえる。他方上述の6冊の印刷本は、原本である財産目録においては次のように記載されている。

イタリア語聖人列伝、カマルドリ会修道士ヴェネト人、ニコラオ・ディ・マネルビ著、1475年印刷。Vie des saints en italien, par Nicolao di Manerbi veneto, monacho del ordine camaldulense, imprimé l'an 1475.

箴言より始まるイタリア語聖書の一部、1471年ヴェニスにて印刷。Partie de la Bible en italien, commençant aux Proverbes, imprimée à Venise l'an 1471.

湖のランスロット第三部、聖盃探索および円卓騎士物語の最終部共、旧式印刷。La tierce partie de Lancelot du Lac, avec la Queste du saint Graial, et la dernière partie de la Table Ronde. Vieille impression.

アーサー王物語、1488年ルアンで印刷された1巻。Le roman du roy Arthus, un volume imprimé à Rouen, l'an 1488.

フランス年代記第1巻、若王ルイまで、仔牛皮に印刷、採色。フランス年代記第2巻、1374年まで。フランス年代記第3巻、シャルル7世の死まで。Le premier volume des Chroniques de France, finissant au roy Louis le jeune, imprimé et enluminé sur vélin. Le socond volume des Chroniques de France, finissant à l'an 1374. Le tierce volume des Chroniques de France, finissant à la mort du roy Charles VII.

歴史の海第1巻、1488年印刷。Le premier

volume de la Mer des histoires, imprimé l'an 1488.

以上の比較から、リゴアの目録はそれまで手写本と混在していた中から印刷本だけを取り出してまとめたという点に主要な意義があるのであり、書誌的内容からいえば貧弱なものであったということが理解されよう。

3 デュピュイ兄弟の目録

1622年頃リゴアが作成した目録は、1645年、デュピュイ兄弟によって改訂された。兄ピエール・デュピュイ(1582—1651)、弟ジャック・デュピュイ(1586—1656)は共に当時の著名な学者であり、1645年、同時に国王文庫管理の任に就いている。

彼らは国王文庫のコレクションを次の三部に分類した。

(1) 2,334冊の手写本と64帳の綴本。

これらはリゴアの目録の第1部にほぼ相当している。

(2) 1,532冊の手写本。これらはリゴアの目録の第2部と第3部にあたる。

(3) 1,329冊の印刷本。

以上のように大別した後、デュピュイ兄弟は1,329冊の印刷本に新たな整理番号をつけ、『国王文庫目録第三部』Catalogus librorum Bibliothecae regioe, Pars IIIと題する目録に収録した。この目録においても体系的秩序は見出されず、単に整理番号順にタイトルが並べられているにすぎないが、別にアルファベット順の一覧表が付されているために検索はずっと容易になっている。

デュピュイ兄弟の目録の記述は、リゴーのものと同くればかなり詳しくなっているが財産目録のそれとは大して変わっていない。次に、先に例示した6冊の本について、デュピュイ兄弟がどのように目録をとっているか見てみよう。頭の数字がこの目録中での整理番号である。

1. ローマ教皇座のすべての聖人伝、カマルドリ会修道士、ヴェネト人、ディ・ニコロ・ディ・マネルビ著。二折版。ヴェネチア。1475年。Le legende di tutti i santi et le sante della Romana sedia, di Nicolo di Manerbi veneto, monaco camaldulense. Folio. Venet. 1475.

49. 箴言に始まり黙示録に終わるイタリア語訳聖書の一部。二折版。ヴェネチア。1471年。Partye de la Bible traduite en italien, commençant aux Proverbes et finissant à l'Apocalypse. Folio. Venet. 1471.

700. 湖のランスロット第三部、聖盃探索および円卓騎士物語の最終部共。二折版。パリ。1488年。La tierce partye de Lancelot du Lac, avec la Queste du saint Graial et la dernière partie da la Table Ronde. Folio. Paris. 1488.

707. アーサー王物語、第1部、第2部。二折版。ルアン。1488年。Le roman du roy Artus, I et II partye. Folio. Rouen. 1488.

53. フランス年代記第1巻、俗称サン・ドニ物語。二折版。パリ。1493年。仔牛皮彩色。Le premier volume des Chroniques de France, vulgairement dictes de Saint-Denis. Folio. Paris. 1493. Sur du vélin, avec enlumineures.

54. 同年代記第2巻。同上。二折版。Le second volume des dictes Chroniques. *Ibid.* Folio.

55. 同年代記第3巻。同上。二折版。Le tiers volume des dictes Chroniques. *Ibid.* Folio.

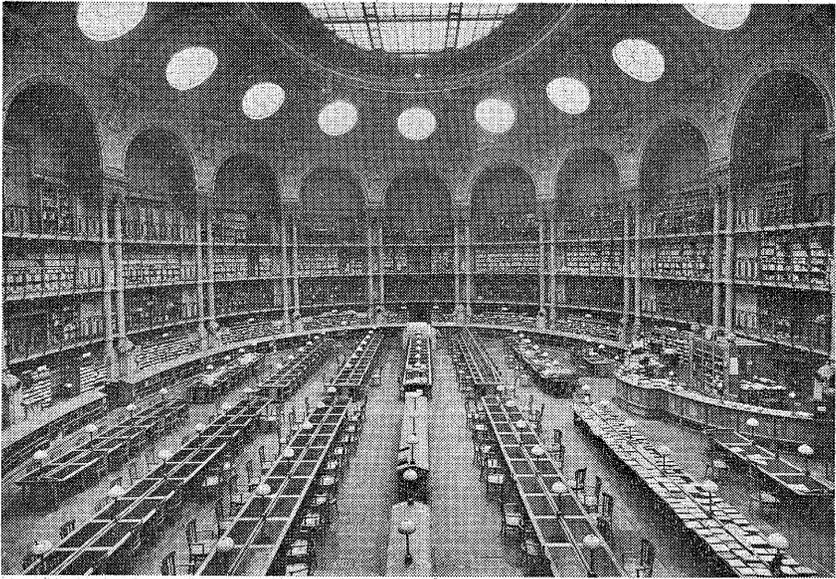
284. 歴史の海第1巻。パリ。二折版。1488年。仔牛皮、挿画入り。Le premier volume de la Mer des histoires. Paris. Folio. 1488. Vélin, avec figures.

ルイ14世の治世初期までの印刷本目録はおおよそこのようなものであった。なお、このデュピュイ兄弟の目録に付されたアルファベット順一覧表は2部現存する。1部はジャック・デュピュイの自筆に成るもので、国王の紋章入りで製本されてフランス国立図書館印刷本部 Département des imprimés に保存され、もう1部は新規受入ラテン語蔵書群第1389番として手写本部 Département des manuscrits に保存されている。

4 ニコラ・クレマンの目録

デュピュイ兄弟は国王文庫整理の任にあたる一方、私財を投入して印刷本購入に努め、その数は遂に9,225冊に及んだ。そしてジャック・デュピュイは1652年5月25日付の遺書によってこれらを国王に寄贈したのである。1,329冊の旧蔵本に、9,225冊の印刷本が加わることになって、ここに国王文庫は10,000冊あまりの印刷本を所蔵することになった。デュピュイ家のコレクションの製本のみごとさは今なおフランス国立図書館の誇りとされているが、これには2冊の二折大冊の目録がつけられており、それらは今も同図書館に保存されている。

この頃の国王文庫印刷本所蔵状況は次のようなものであった。



〔写真〕 定期刊物（雑誌）閲覧室

I. 旧蔵書群。二折版904冊、四折版257冊、八折、十二折等168冊、計1,329冊。

II. デュピュイ家蔵書。計9,225冊。二折版2,079冊、四折版2,828冊、八折、十二折版4,316冊、その他。この蔵書については、デュピュイ兄弟による上述の目録が付されている。

III. その他。二折版21冊、四折版32冊、八折版、十二折版等53冊、計106冊。

この他に未装丁本が何冊もあり、印刷本の総計は、10,658冊に達した。

さらにルイ14世時代、フランス絶対王政の確立とともに国王文庫所蔵本は飛躍的に増加したが、これはマザラン、コルベールらの政治的指導者に負うところが大きい。コルベール時代、すでに蔵書は35,000冊に達したといわれるが、この頃のありさまをアンドレ・マソンは次のよ

うに記している。

「このめざましい発展にあずかって力があつた主要人物の一人は、コルベールで、愛書家の彼は自分自身でもかなり充実した文庫をもっていたが、それに力を入れるよりは、もっと王室図書館の充実にとりくんだ。彼が高い地位に在任中、特別なコレクションの購入や、外国にいるフランス大使たちに課せられた収書の使命などのおかげで、蔵書数は4倍にもふえた。そしてこれは、王に関する一番つまらないようなものを、上手に利用して行なわれた。たとえばメッツの大聖堂の僧会員がシヤルル禿頭王の写本を献上したとき、コルベールは感謝のしるしとして、ルイ14世の肖像を与えるといった具合だった。

1680年にフォアの学校が、州知事ダギュソーのすすめで、そこに保管する写本をわずかに貨幣40ヌーで、コルベールに譲った。さてそこでコルベールは、この写本……（中略）

……を、回り回って手に入れることになったわけである。

この絶対権力を有する大臣は、自分から進物をねだる必要は全然なかった。それは向こうから自然にやってくるのだった。ルーアンの町の記録帳簿には、この点に関して次のような、含みの多い記述を残している。「コルベール氏は図書館をこしらえた。多数の宗教関係の団体が面議を求めて訪れ、それぞれ彼らの図書館で最も珍しいものを、彼に贈ることを競いあつた。彼の保護を毎日のように必要とする町は、この大宰相が望んでいるものを送らずにすますことはできなかった。」(アンドレ・マソン、ポール・サルヴァン共著、小林宏訳『図書館』、白水社、pp. 40—41)

35,000冊に及ぶ国王文庫所蔵印刷本の目録作成にあつたのはニコラ・クレマンである。彼は9年の歳月を費して、全体を23部門に分類し、整理番号を与えて7巻に及ぶ大冊の体系的目録と、6冊の著者名のアルファベット順一覧表、著者不明のものについてはその主題を示す語の一覧表を作成した。各部門における判型別冊数は次のとおりである。

	2折	4折	8折, 12折
A. 聖書および翻訳された聖書類 Biblia et bibliorum interpretes	787	600	600
B. 典礼 Liturgiæ	64	102	181
C. 聖父 Sancti Patres	417	202	380
D. 神学 Theologi	502	1,030	1,831
E. 宗教会議および教会法 Concilia et jus canonicum	306	461	295

F. 市民法 Jus civile	830	784	651
G. 地理学および年代学 Geographi et chronologi	322	300	384
H. 教会史 Historia ecclesiastica	428	640	633
I. ギリシア・ローマ史 Historia græca et romana	363	228	453
K. イタリア史 Historia italica	260	760	385
L. ドイツ・ベルギー史 Historia germanica et belgica	368	605	387
M. フランス史 Historia gallica	368	475	880
N. イギリス史 Historia anglica	97	151	278
O. イスパニア、インド史 Historia hispanica et indica	406	454	305
P. 雑史 Historia miscellanea	48	155	180
Q. 書誌学 Bibliothecarii	49	96	83
R. 哲学 Philosophi	428	718	1,288
S. 自然史 Historia naturalis	207	261	382
T. 医学 Medici	414	862	1,518
V. 数学 Mathematici	394	684	355
X. 文法学 Grammatici	273	428	1,020
Y. 詩学 Poetæ	306	733	1,660
Z. 文献学 Philologi	332	948	1,512
大型図版本 Grands Livres de figures	352		
計	8,321	11,627	15,641

この表から当時の国王文庫所蔵図書の分布は、なんといってもキリスト教関係書籍が中心であり、哲学はたしかに「神学の婢女」の地位しか与えられておらず、神学関係に次いで多いのが歴史、地理関係書籍であるが、これもヨーロッパ中心で、日本はもちろんアジアの名すら挙げられておらず、わずかに植民地政策との関連においてインドの名が見られるのみである、等々のことが理解される。

クレマンの目録は1684年に完成したが、その間も蔵書数は増加し続け、1688年には43,000冊を数えるに至った。そこで、この年クレマンは目録の根本的改訂に着手し、14巻から成る第二の体系的目録を作成した。作成にあたっては前記第一の目録の分類とは若干異同があるので次に示しておこう。いずれにせよクレマンの努力によって国王文庫は初めて目録らしい目録を持ったわけである。後号ではこのクレマンとデンマークの書誌学者フレデリック・ロストガルドとの往復書簡等を参照しつつ、フランスにおける目録の歴史をさらにくわしく見てゆくことになろう。

- A. 聖書 Bible.
- B. 翻訳聖書 Interprètes de la Bible.
- C. 教父 Pères de l'Église.
- D. 神学者 Théologiens.
- E. 宗教会議, 教会法, 典礼 Conciles. Droit canonique. Liturgie.
- F. 市民および政治の法 Droit civil et politique
- G. 地理学, 年代記, 一般歴史 Géographie. Chronologie et histoire générale.
- H. 教会史 Histoire ecclésiastique.

- J. ギリシア, ビザンツ史。ローマ史および古代史 Histoire grecque et byzantine. Histoire romaine et Antiquités.
- K. イタリア史 Histoire d'Italie.
- L. フランス史 Histoire de France.
- M. ドイツ, スイス, ハンガリア, ポーランド, ロシア, フランドル地方およびベルギーの各国史 Histoire d'Allemagne, de Suisse, de Hongrie, de Pologne, de Russie, des États du Nord et de la Belgique.
- N. イギリス史 Histoire d'Angleterre.
- O. スペイン, ポルトガル史, 非ヨーロッパ諸国史, 紀行 Histoire d'Espagne, de Portugal et des pays situés en dehors de l'Europe. Voyages.
- P. 歴史雑纂, 伝記 Mélanges historiques. Biographie.
- Q. 書誌学 Bibliographie.
- R. 哲学, 自然学, 倫理学, 経済学および政治学 Philosophie. Physique. Sciences morales, économiques et politiques.
- S. 自然史, 農業 Histoire naturelle. Agriculture.
- T. 医学, 化学 Médecine, Chimie.
- V. 数学, 天文学, 建築学, 兵学, 航海術, 力学, 美術, 工芸 Mathématiques. Astronomie. Architecture. Art militaire. Art nautique. Mécanique. Beaux-arts. Arts mécaniques.
- X. 文法 Grammaire.
- Y. 詩および小説 Poésie et romans.
- Z. 文献学および全集, 神話学, 紋章学, 騎馬試合, 儀式 Philologie et polygraphie. Mythologie, emblèmes, tournois pompes.

(まつもと・しんじ：一般参考課
きむら・もとこ：索引課)